こんぶくろ池通信

2020 年 1 月
第 69 号

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2020　年頭所感
～露堂々～

会長　岡本 昇

ライトトラップの観察（2019 年 8 月）

ズミ保全活動：通路整備（2019 年 1 月）

園内案内標識設置（2019 年 3 月）

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

令和という新しい時代を迎えた 2019 年は、私たち NPO にとっても節目の年になりました。新しい体制のもとに会員が結束し、一部について新たな活動を試みてまいりました。

その活動の概要について、昨年を振り返ってみますと、従来から実施してきた「きのこ調査（観察会）」及び「植生調査・土壌動物調査」以外に、会員主体による「手づくり自然観察会」や夜に「ライトトラップ昆虫観察会」を実施しました。園内ガイドも、同自然観察会に併せて行うほか、前年同様小学校や団体を対象に実施したことから多数の方に参加いただきました。

初めて試みるズミ再生に向けた取り組みは、調査等のために誘導路を構築。光環境の改善を行い、また、会員各自がズミの「種」を自宅に持ち帰り、現在家庭で育てております。加えて、ズミの再生地域を選定するため、周辺に園内の竹を利用した簡易水位計を 9 か所設置し、湿地環境における水位の状況把握に努め始めております（柏市は別途自動水位計を 2 か所設置）。

その他、調査研究分野については、東大、千葉大の教授や学生と連携し、公園の景観研究やズミの DNA 調査等の研究に協力してまいりました。

公園整備については、例年通りの笹の刈込、倒木・劣勢木の除去などのほかに、エントランスにある掲示板の屋根葺替や木製の大型看板を設置し、また、園路の要所にも案内表示板を設置。さらに、朽ちている木杭を約 500 本プラ杭に交換するなど園路等の整備を行いました。9 月、10 月に台風 15、19 号が襲来し、千葉県内に豪雨、風雨をもたらし被害が多発。当公園も例外ではなく直径約 40～50 ㎝の大径木など多くの樹木が倒れ、かつてないほど被害が甚大なものになりました。このため会員の多くが、また、柏市の協力も得ながら伐採、除去等公園整備に汗を流しました。

イベントでは、前号通信にてお知らせしておりますが、晩秋に「スタンプラリー＆ワークショップ」と称して、単なるスタンプラリーではない企画を立案。今まで実施したことのない、ノコギリを使用した工作体験や森の葉っぱを使ったスタンプやクイズ等々も。前日から当日朝まで降雨が続いたこともあり、参加者は予想を大幅に下回り

造園学会視察（2019 年 11 月）

ましたが、弁天池周りの園路が雨の影響で冠水したため、急遽、園路の補強整備を行いました。

なお、同日は小雨降る中、千葉大学の小林達明副学長を先頭に、日本造園学会関東支部大会に参加された関係者 30 余名が当公園を訪れ、約 1 時間半見学されました。同イベントは、同学会の参加者に対する対応も含め、会員全員が力を合わせるなど、里山班、調査班が ONE TEAM になって取り組んだ一大行事であったと思います。

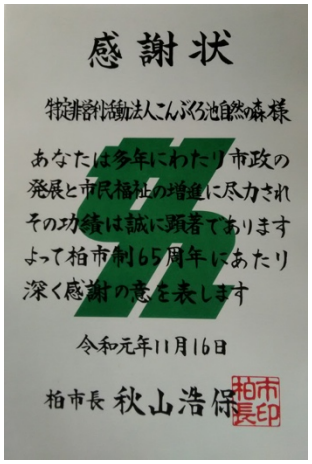
これらの自然観察会やイベントの取り組みは、公園であるが故、NPO が、人が自然と触れ合える機会を創出したといっても過言ではないと言えるのではないでしょうか。

伐採された道路予定地（2019 年 11 月）

次にうれしいニュースを二つお伝えします。

一つは、オオタカが営巣し二羽の雛がかえりました。但し、残念なことに、営巣した森林は現在ありません。営巣場所が当公園の東側に位置する民有地の中にあり、その森林の木々は伐採されて今や跡形もなくなりました。二羽とも 7 月中旬には巣立ち、「キィーキィー」と甲高く、また、力強い鳴き声を森の中に響かせ、飛び交うその姿は、まさに幼鳥といえども「空の王者」の風格。私は鳴き声に引き寄せられて園路を進んでいくや、目の前を低空飛行で羽ばたいていくオオタカを見て感動。一瞬でしたが、思わず、体が震えました。

二つ目は、柏市より「NPO 法人こんぶくろ池自然の森」が市政功労者として表彰されたことです。11 月にアミュゼ柏において、柏市制施行 65 周年を記念として表彰式が行われました。柏市住民約 43 万人の中から「自治功労」など 7 部門、個人 491 人、18 団体が表彰を受け、その中で「環境・都市・土木・建設功労」部門の一人として「NPO 法人こんぶくろ池自然の森」も受賞。秋山柏市長より「こんぶくろの活動に感謝しています。公園の周りが変わってきていますがこれからも宜しくお願いします」とねぎらいの言葉をかけて頂きました。これは柏市北部において、自然公園づくりの基礎を築いてこられた先人達の献身的な活動の末に受賞したものと思います。


感謝状

特定非営利活動法人こんぶくろ池自然の森様

あなたは多年にわたり市政の発展と市民福祉の増進に尽力されその功績は誠に顕著であります
よって柏市制65周年にあたり深く感謝の意を表します

令和元年11月16日

柏市長 秋山浩保 柏市長印

このようなうれしい出来事も皆さまと共に分かち合いたいと思います。

その他、「AED 講習会」「刈払機講習会」を開催し、内部研修の充実化を図るとともに、「牛久自然観察の森」の視察や会員募集のために「公園作り・サポーター講座」も開催しました。

2020 年は、十二支の一番目の動物「子（ね）」年でスタートとなり、また、4 月に NPO は、発足満 10 周年を迎えます。さらに、7 月には世紀の祭典「東京オリンピック」が開催されるなど不思議と様々なことが重なる年になります。私たち NPO が新たなフェーズに向かう年になるよう努めてまいりたいと思います。

年末に禅宗信徒の学友 Y 君に会いました。彼は私に干支の絵をかいて言葉を添えてくれました。ネズミの親子と「露堂々」の言葉を添えて。Y 君は「ろどうどう」といわれました。かざらずまっすぐどうど

うとしていろ、ということでしょうか。確かに、課題が多く越える山が高いほど、飾らず真っすぐ堂々としていなければならないでしょう。そこに必ずや道もひらけると信じて。

一方、公園の周辺は土地区画事業による整備が進み、いわゆる「こんぶくろ池自然博物公園」全体の輪郭がより明確になってまいりました。5 月から 12 月にかけて公園に隣接していた西柏自動車教習所やホテル二つが解体、なかば並行して、東縁にある民有地の森林が伐採され、それぞれの跡地は整地されました。公園エリアを含む同区画整理事業がより進行していき、公園の東縁と北縁に道路建設が始まろうとしております。今後より一層当公園の近くまで都市化が進み、涵養域エリアの減少・乾燥化が進んでいく恐れがあります。

NPO にとって様々な課題がありますが、とりわけ公園の北縁について、新たな道路（道路幅員 4m）や雨水管（Φ1650）設置の計画があり、この点が最重要課題であると言えます。計画の実行に当たって、こんぶくろ池に隣接し地金堀と接続している北側排水路の整備をどのように行おうとするのか、また、湧水が枯渇した場合の給水をどのようにするのか、この二点から目を離せないと考えております。差し当たり湧水対策として涵養域をできるだけ確保するため、隣地に対し雨水浸透桝の設置などを働きかける必要があるのではないかと考えております。当然柏市にも。

基本計画が策定された当時と現在の涵養域等では変化しているように思われますので、当時の基本的な考え方を踏まえ、公園の生命線である湿地環境と自然の森を維持・保全していくために何ができるのかについて模索してまいりたいと思います。

1995 年 7 月に、千葉県ほか三者から提出された常磐新線沿線整備事業に係る環境保全計画書について「さらに環境保全対策について配慮が必要と判断される」とする提言が出されています。提言に「こんぶくろ」の固有名詞が上げられ、「湧水及び周辺の生態系の保全を図ること」と要請を受けていることなどから、アドバイザーの先生方も関心を持って注視している模様です。NPO の力は限定的と思いますが、県行政などの動向に注意を払いながら取り組んでまいりたいと思います。

ともすれば NPO の組織は、10 年前後で設立当初の熱が冷めるとともに、メンバーも入れ替わり、その結果、立ちいかなくなるケースが少なくないとよく耳にします。このような事態に陥らないよう、また、県下において、ズミなど絶滅危惧種などが生育している稀有な公園であるので、希少種等の植生調査をしっかり行いつつ生態系の保全と公園整備に取り組み、皆で知恵を出し合い、一歩ずつ前に進めていければと思います。「露堂々」と。

結びにあたり、改めて本年も NPO に対する皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様にとっても良き一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

本をつくりました

金児 道代

「虫が好き」　我ながら直球勝負なこの題名。

これは、日常でよく出会う小さな虫たちの写真集です。蜘蛛や蜥蜴や昆虫を「虫」と呼び、うつろいゆく季節の風景や植物と共に表現しました。

昨年５月「芸術新舎」よりようやく産ぶ声をあげて、６月に全国に飛んで行きました。
撮影は、自宅の庭や近隣の森や林が中心です。もちろん「こんぶくろ池自然博物公園」は大切な場所で、全 64 ページ中７ページが、こんぶくろの森で生まれた作品です。

なぜ「身近な自然」、「よく出会う虫」にこだわるかと申しますと、日々の生活の中で随分助けてもらっているからです。不器用な自分にとって、人間社会は荒波に感じることしばしば。よくへこたれています。そんな時庭にじーっと佇んだり、森や林に出かけます。

するとたくさんの虫たちが、次々と立ち現れます。
食うか食われるか。想像以上に過酷な世界で、なんとしても生き抜いて子孫を残そうと奮闘しています。目的はみんな同じで、とてもシンプル。しかしその方法は実にさまざま。からだの形・大きさ・色も驚くほど多様です。長い長い時間をかけての進化の道のり。全身全霊でそれぞれが選びとってきた結果と言えるのではないでしょうか。

「なんて不思議で、なんて美しい！！」

激しく心を揺さぶられ、感動します。そして、自分で発見するヨロコビや謎解きをしていくワクワク。
自分にどんどん力が湧いてくるのを感じます。

そんな虫がくれた沢山のしあわせと勇気をひとりでも多くの人たちに伝えたいと思いました。
それから、人と自然の共生を常に考えて日々奮闘されている方々は、本当に素晴らしいです。おかげさまで安全に森や林を歩くことができます。いつも有難うございます！

※1 月の理事会議事録抜粋は、後日メーリングリストでお送りします。

会員紹介　村上 幸子（ゆきこ）さん

森の中の散歩が大好きで、主に里山班で活動しています。
会員の皆さんから色んなことを学んでいきたいと思い、活動に参加しています。
これからもよろしくお願いします。